

学長・総長アンケート 『貴大学におけるITスキル教育について』 結果報告

株式会社 オデッセイ コミュニケーションズ
2020年1月

Society5.0の実現に資する人材育成にむけ、社会から教育機関に期待されるITスキル教育のレベルは、一段と高まりを見せています。その一方で各企業の人事担当からは、新入社員のパソコン操作レベルの著しい低下を指摘する声も寄せられています。

このような中、ITスキル習得の一助として毎年7万人を超える学生の皆さまにMOSを受験いただいておりますが、各大学で具体的にどのようにMOSを活用されているのか、現状としては全てを把握しきれておりませんでした。そこで、全国の大学・短期大学に向けてMOS活用調査を実施すると同時に、以下の概要で学長・総長に向けて「ITスキル教育について」のアンケートを実施いたしました。

【調査実施者】	株式会社 オデッセイ コミュニケーションズ
【調査内容】	『貴大学におけるITスキル教育について』
【調査対象】	全国の775大学・304短期大学 (国立・公立・私立大学)
【調査期間】	2019年10月1日～11月30日
【調査方法】	郵送
【回答方法】	郵送(返信用封筒)、FAX、Web
【回答数】	
■回答校数	94校／1079校
■回答校内訳	大学68校・短期大学26校
■回答率	8.7%

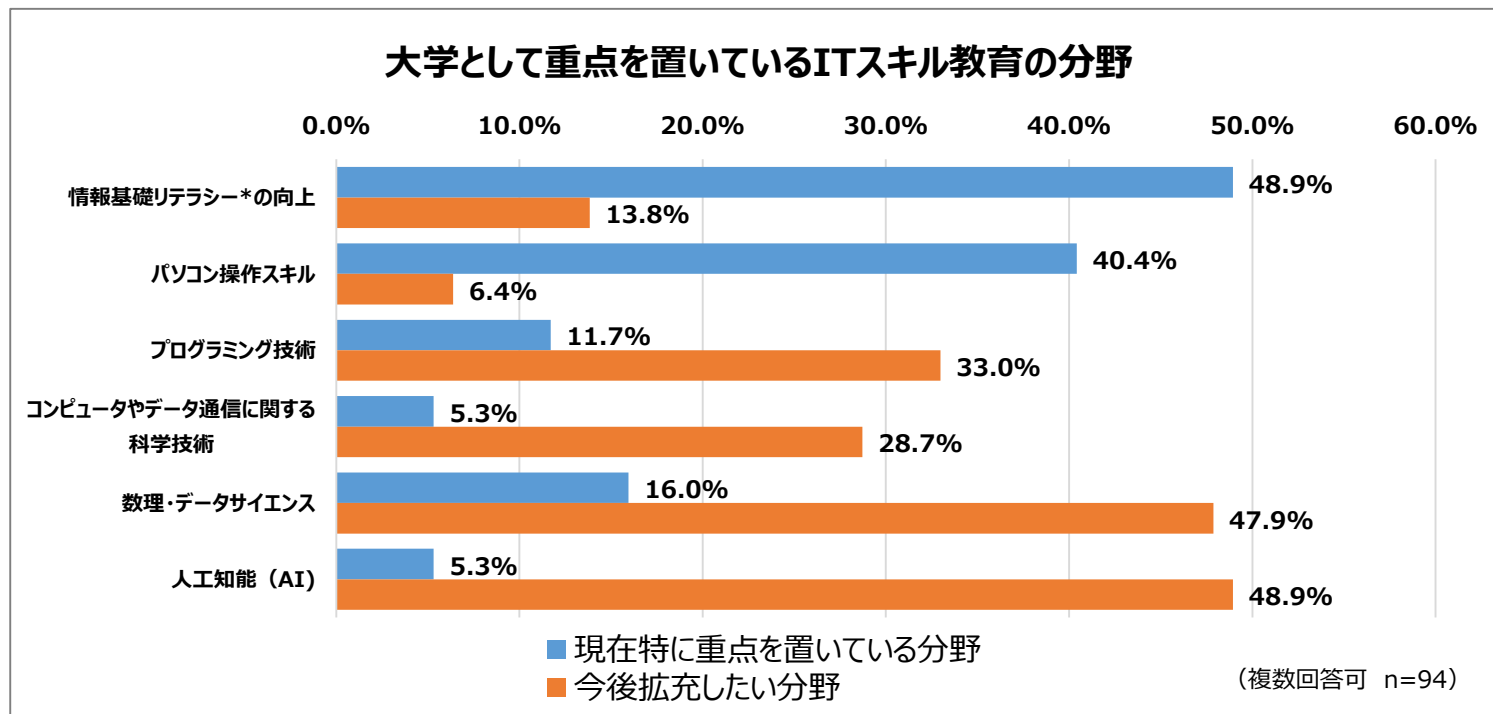
(参考) 同時実施
『マイクロソフト オフィス スペシャリスト
(MOS)活用調査』回答数
■回答総数 576件
■回答校数 301校／1079校
■回答率 27.9%

部門	回答数
教務課	146
入試課	183
キャリアセンター	168
生涯学習センター	79

- ① 現在重点を置いているITスキル教育の分野は「情報基礎リテラシーの向上」が最も多く、今後拡充したいITスキル教育の分野は「人工知能（AI）」が最も多い
- ② 大学の教育環境整備面では、「学部や学科でのITスキル教育の導入」はすでに取り組んでいると回答した大学が多く、今後拡充したい項目としては「数理・データサイエンス教育の全学部学生への展開に向けてカリキュラムの体系化」と回答した大学が最も多い
- ③ 大学におけるITスキル教育の取り組みについて、8割以上の学長が「取り組みは進んでいるが、更なる取り組みが必要である」と回答
- ④ 約6割の学長が「WordやExcelなどのアプリケーション操作技能は中学・高校卒業時点で習得しているべき」と回答
- ⑤ 学長の「マイクロソフト オフィス スペシャリスト（MOS）」認知度は90.4%

現在重点を置いているITスキル教育の分野は「情報基礎リテラシーの向上」が最も多く、 今後拡充したいITスキル教育の分野は「人工知能（AI）」が最も多い

グラフにある6項目のうち、「情報基礎リテラシー（情報を正しく使うための知識）の向上」に重点を置いていると回答した大学が最も多く、回答全体の48.9%に。また「人工知能（AI）」と「数理・データサイエンス」を今後拡充したいITスキル教育の分野だと回答した大学がそれぞれ半数近くにのぼる結果となった。



*情報基礎リテラシー：情報を正しく使うための知識

その他重点的に取り組んでいるITスキル教育の分野（自由記述）

- ICTと教育、ICTとビジネスなど、複合的学際領域に関する学びを取り入れている。（芦屋大学）
- 文系大学の典型である本学には、本来初等中等教育時に修得すべき数学の基礎や科学的論理的思考訓練が不十分な学生が散見される。本学では初年次に理数科目の中学・高校の復習を意図的に行うようカリキュラム編成する。MOS、ITパスポート資格取得の講座を開講する。（神田外語大学）
- 映像・音響メディア分野、デジタルデザイン分野、図書館・アーカイブス分野（駿河台大学）

「学部や学科でのITスキル教育の導入」はすでに取り組んでいると回答した大学が多く、今後拡充したい項目としては「数理・データサイエンス教育の全学部学生への展開に向けてカリキュラムの体系化」と回答した大学が最も多い

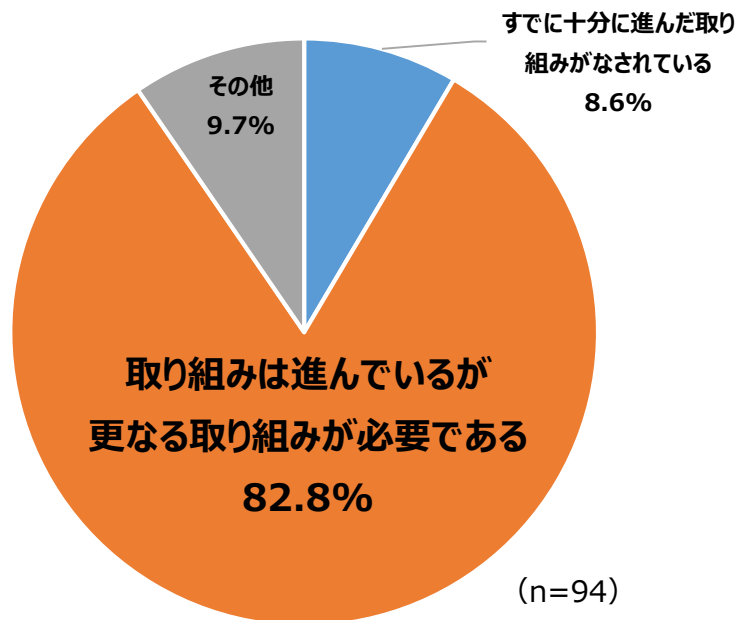
Q. 貴大学がすでに取り組んでいる項目・今後拡充したい項目についてお聞かせください。

【大分類】	【小分類】	すでに取り組んでいる項目	今後拡充したい項目
カリキュラム	数理・データサイエンス教育の全学部学生への展開に向けてカリキュラムの体系化	11.7%	54.3%
教育機会	学部や学科でのITスキル教育の導入	52.1%	24.5%
	課外講座でのITスキル教育の導入	20.2%	23.4%
	キャリア教育への組み込み	37.2%	25.5%
	地域に開かれたITスキル教育（生涯学習センターなど）	13.8%	28.7%
教員	教員の指導力向上	19.1%	45.7%
	教員数の増強	9.6%	34.0%
学内設備	タブレットの台数の拡充	20.2%	35.1%
	パソコン台数の拡充（デスクトップ型・ノート型）	43.6%	22.3%

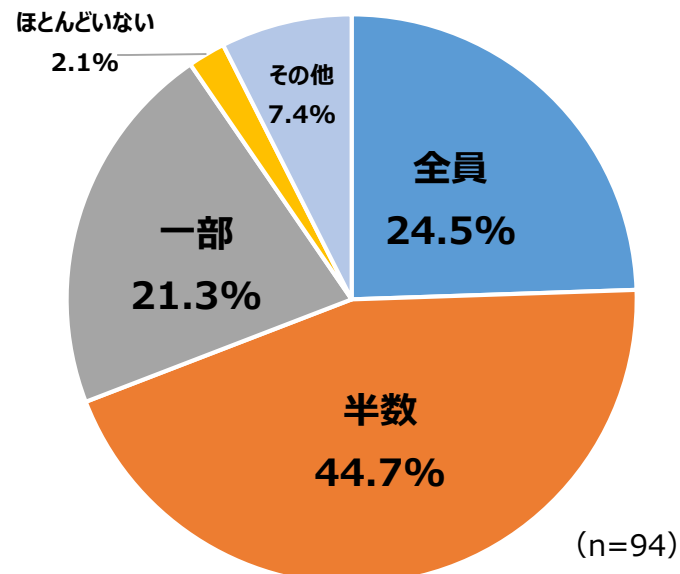
（複数回答可 n=94）

大学におけるITスキル教育の取り組みについて、
8割以上の学長が「取り組みは進んでいるが、更なる取り組みが必要である」と回答

貴大学における
ITスキル教育の取り組みについて



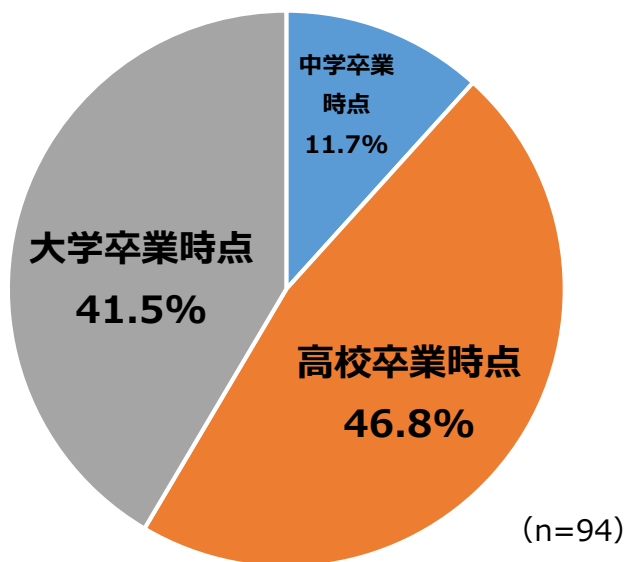
卒業生のうち どれくらいの割合が
社会人として十分通用するITスキルを
獲得しているか



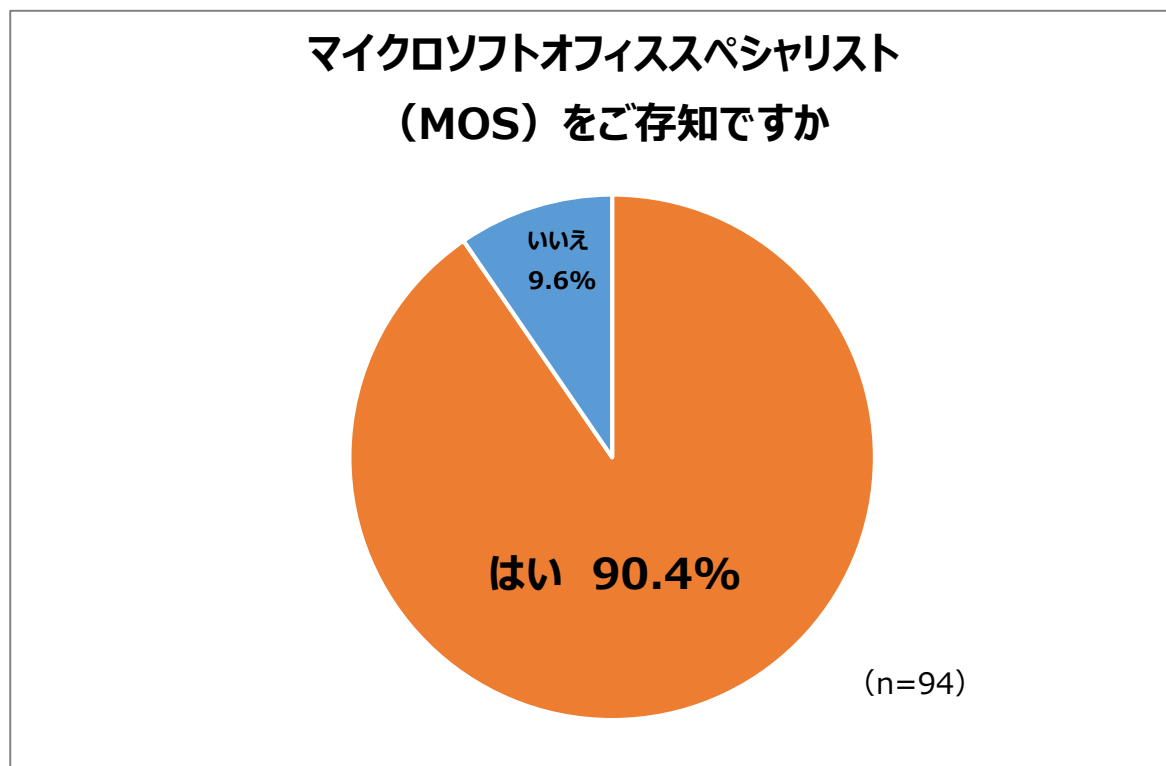
約6割の学長が「WordやExcelなどのアプリケーション操作技能は中学・高校卒業時点で習得しているべき」と回答

59%の学長が、大学入学までにアプリケーション操作技能を習得しているべきと回答。また全ての学長が、学生は大学卒業時点までにはアプリケーション操作技能を身につけているべきと考えており、社会人になってから習得すべきだと回答した学長は0人であった。

WordやExcelなどのアプリケーション操作技能は、 どの段階で習得しているべきか



学長の「マイクロソフト オフィス スペシャリスト（MOS）」認知度は90.4%



Q. 貴大学が重点を置いているITスキル教育の分野についてお聞かせください。

- これから本学の学部間連携や地域・海外大学等の学外との交流を積極的に推進していくことが重要であると考えています。そのため、キャンパス間や海外大学等とを結ぶICT機能を備えた教育研究環境の整備充実に努めてまいります。（愛知県立大学）
- データサイエンス分野は、文系学部において、さらに必要となってくる。今後、AI分野の教育とともに最新の技術の利活用教育が必要である。（青森公立大学）
- 初等・中等教育段階においてはICT等情報スキルに慣れ親しみつつ、基礎基本的な情報活用方法の習得（知恵）、情報モラル等（心）を養っている。高等教育では、現在までに養われた知恵や心をさらに磨くとともに、高等教育機関としての高度な教養教育や専門教育を発揮した学びを行わなければならない。特に本学では、MOS、ビジネス統計スペシャリスト資格に準拠した学びに、教育やビジネスの現場での知見や実データをもとにした学びを取り入れ、将来につながる実践的な知識の獲得をめざしている。（芦屋大学）
- ITスキルは学生達の職業選択領域を広げることのみならず、個々人の防衛術として社会人の基礎能力として要求される。急速に進化するAIが人間社会をある程度コントロールする時代が来るとわれ、その際データサイエンスのしきみを理解せずして市民としての発言機会すら奪われることを危惧する。（神田外語大学）
- ITスキルは超スマート社会を支える人材の基礎的な素養であり、文系・理系を問わず必要な力である。特に、ビッグデータを用いたエビデンスベースの価値創造を行う人材を育成するために重要であると考えている。（島根大学）
- ITやICT技術の進展が目覚ましく移り変わっており「教育の質向上」というグランド・デザイン2021に掲げた本学ブランドの構築とその達成のためにも、より一層充実した共通教育を継続的に提供していかなければならない。とりわけ、ゼミレポートや卒論などの作成・発表において習得しておくべきタブレットやノートPCの取り扱いや、関連する検定・資格試験取得支援に加え、アクティブラーニングの実践、情報処理教育に関する質の向上に取り組み、安定的な教育活動を提供し、地域を始めとする社会の各領域で活躍する人材を育成したい。（駿河台大学）
- 本学では、教養教育においてITスキルを学ぶことができる科目を多数開講しているため、多くの学生は1年次終了時にITスキルの基礎を習得している。その後、主専攻プログラムにおける専門的な演習、実習、課題への取り組み等を通して多くの学生は、主専攻プログラム関連分野で頻繁に用いられているITスキルを社会人として必要なレベルまで身に付けているものと考えている。ICT教育の導入に関しては、設備導入費用が大きな問題になっている。本学では、一部の授業でコンピュータ実習室でICT教育を行っているが、ほとんどの実習室の収容人数が50人前後であるため、受講者が50人を超える授業では実施することが難しい状況である。（新潟大学）

- データサイエンス教育の強化と関連教養教育との融合を推進することが重要課題であると考えている。（新潟経営大学）
- 本学では、2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）に先立ち、2019年度の学部再編において、Society 5.0時代を支えるデータサイエンティストを育成する社会情報科学部を設置するとともに、今後、本学のすべての学部生がAI・データサイエンスの基本的な知識を身につけるための全学共通教育の見直しに取り組むこととしている。（兵庫県立大学）
- 社会の進歩に合わせたスキルは当然必要である。しかし同時に、人間同士の絆の深まりにも多大な配慮が必要である。（松本大学 松商短期大学部）
- 超スマート社会に向けた、基礎的リテラシー教育の充実（大学名非公表）
- 時代の流れに即した教育を行いたい。（大学名非公表）
- 今後も充実させていきたい。（大学名非公表）
- 社会の変化に対応できるように、常に新しいことを取り入れていきたい。（大学名非公表）
- 教員養成学科を有しているので、今後のあり方を検討したい。（大学名非公表）
- 本学では入学者全員にMOS受験を奨励し、1年次に半数以上の学生がPowerPoint、Wordに合格している。（大学名非公表）
- 大学の特性上、注視して積極的に取り組むというところまでは進んでいない。重要性は一般的には認識してはいるが、取り組みはまだ時間を要する。（大学名非公表）
- 今後、カリキュラムの中で重視し、展開していきたい。ITスキル教育やICT教育を担う人材の確保が課題である。（大学名非公表）
- 本学は教養系の短大であるため、あまり高度なITスキル教育は必要ないと思うが、社会人になった時に必要な基本スキルをしっかりと身につけさせることや「だまされない」ための情報リテラシー教育は非常に重要で、今後充実させる必要があると考えている。（大学名非公表）

- 2040年に向け、IT・ICT教育の重要性が高まり、それらを駆使できる人材育成が急務であると言える。今後あらゆる分野において、社会が求めるスキル修得のため、大学での教育が望まれると考えます。（大学名非公表）
- 保育者養成校ですので、保育日誌の記録やデータの読解ができれば十分と考えます。（大学名非公表）
- 医学部 専科大学であるが、電子カルテを将来使うことや学会発表など最低限のITスキルは必要である。（大学名非公表）
- 全学生を対象に基礎的なICT教育は実施しているが、本学ではデータサイエンスに関する学部も設置し、専門教育及び企業・自治体等との連携も進めている。いわゆる「Society5.0」の実現を担う人材を育成するため、軸足を社会に置いた教育体制が不可欠と考える。（大学名非公表）
- 当然身につけておくべき能力であるため重要であると考えます。（大学名非公表）
- 本学は、平成31年度に工学部から理工学部へ改組を行った。専門分野に関わらずICT技術を活用できるようにするために、情報分野の基礎として、データ処理、データサイエンス、プログラミングを全学共通の必修科目と設定し、あらゆる産業の根源的な基盤となる情報技術の基礎を全学の学生が学習することとした。本学が建学以来貢献してきたものづくり理工系人材の育成を、北海道をはじめとした産業界の変容と社会の要請に応えるべく、横断的分野の課題にも対応して、ICT技術などの新たな技術を活用できる新時代の理工系人材の育成（本学が目指す総合理工学教育）へと転換し、展開させていくことを考えている。確かな研究力に裏付けされた教育を推進するために、優秀な（研究力+教育力の観点から）、とりわけ情報系分野の教員の拡充・補強が必要と考えている。（大学名非公表）
- 大学は文系中心（文学部、社会福祉学部の2学部）の大学であるが、これからの社会を考えると、文理融合的知識が必要とされることは必須で、そのため智慧知識がITスキルやICTであろう。そのための最低限の基礎知識は学部時代にきちんと修得して卒業して欲しいので、そのためのカリキュラム改革が必要と考える。（大学名非公表）
- 社会の進歩に合わせたスキルは当然必要である。しかし同時に、人間同士の絆の深まりにも多大な配慮が必要である。ITの進化が人間を疎外することがないようにしたい。（大学名非公表）
- 本学はITスキル教育等には非常に遅れていると思う。今後、取り残されないためにも、充実すべきと思う。予算的な課題もある。（大学名非公表）

- 本学の学生に対して、この領域の教育は必要と考えているが、学部によりその程度は考えるべきである。将来、この領域のスキルを用いることが必要な企業に就職する可能性が高い学部の場合は専門的教育を、それ以外の学部学生に対してはリテラシー教育を考えている。（大学名非公表）
- 地域における理工系総合大学として、情報系基礎教育の充実を図り、Office365、Matlab、Solidworks等のソフトウェアを導入・活用していき、地域社会にITスキルの高い人材を輩出していきたい。（大学名非公表）
- アクティブラーニングの推進など多様な教育の提供や学習環境の向上を図るためにICTを活用した教育を推進していくことは、重要であると考えている。（大学名非公表）
- 正課授業で実習室で一斉にアプリの操作教育を行う従来のリテラシー教育から、コンテンツ生成(レポート作成も含む)、データ分析など、専門教育の学習の中で適切にPCを活用する方向への転換が求められる。その際、学生が実際に所有するスマートフォンとパソコンを有機的・効果的に活用する方法と、環境の整備（無線環境、学習支援環境）が重要になるだろう。（大学名非公表）
- 現状では必要最小限のところはやっていると思うが、今後、本学で取得できる免許・資格を生かした就業先で必要とされる関連教育の充実を図りたい。（大学名非公表）
- 論理的な思考を持ち、ICTを活用して仕事に役立てられる基礎を確実に身につけられるようにしたい。（大学名非公表）
- 大学におけるAI及び数理データサイエンス教育の拡充・強化が打ち出されており、本学としても教養教育から専門教育へと発展的につながるカリキュラムの構築と、文理横断的な展開を推進することとしている。（大学名非公表）
- 大学全体のITスキルを向上させるために、教員のITスキル向上を支援する取組が必要である。（大学名非公表）
- Society5.0に向けたIT技術の理解については、今後対応し拡充する必要がある。共通教育の情報分野、各学部の専門基礎としての情報処理科目で、一定のレベルは確保しているが、今後は専門教育の手法としてもICTの活用を拡充すべきである。（大学名非公表）
- 医療現場においてもより高度で充実したITスキルが要求されると考えられる。この変化に柔軟に対応できるような教育をしたいと考える。（大学名非公表）

※Excel、PowerPoint、Accessは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

【お問い合わせ】

株式会社 オデッセイ コミュニケーションズ
教育機関担当

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-3-1新東京ビルB1
電話 03-5293-1885 FAX 03-5293-1882
E-mail : school@odyssey-com.co.jp